



特別支援学校における発達支持的生徒指導の実践

1. 研究目的

本研究の目的は、特別支援学校高等部において教員が授業の中で発達支持的生徒指導をどのように実践しているかを明らかにすることである。発達支持的生徒指導とは、生徒指導提要に示されているように、すべての生徒を対象とし、挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話などの日常的な関わりを通して、生徒が主体的に学習へ参加し、安心して成長できる環境を支えるものである。本研究では、研究1において教員へのインタビューから意識面を、研究2では授業観察を通して行動面を明らかにし、発達支持的生徒指導の実践の実態を検討する。

2. 研究1：インタビュー調査

方法

- ・高等部教員3名への半構造化インタビュー
- ・録音→逐語録
- ・「挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話」の5項目で抽出、整理

主な結果

- ・対話を重視し、生徒が安心して活動できる環境づくりが基盤
- ・成功体験を積み重ねる
- ・生徒一人ひとりの個性特性に合わせた柔軟な支援

☆教員の日常の実践の中に「発達を支える視点」が根付いていることが示された。

3. 研究2：授業観察

方法

- ・研究1の3名の教員の授業を録画
- ・授業映像を分析
- ・「挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話」の5項目で発言、行動を抽出、整理

主な結果

- ・状態に応じた声かけ
- ・成功を促す賞賛・励まし
- ・対話を通じて参加を促す

※研究1で語られた視点は、実際の授業実践においても具体的な関わりとして多く確認された。

4. 考察

- ・教員が生徒のわずかな変化に敏感に気づき、その気づきを基にした関わりが発達支持的生徒指導の中核
- ・日常的な対話や声かけが、生徒の安心感を支える重要な要素

5. まとめ

特別支援学校における発達支持的生徒指導は、授業の円滑な進行を支える基盤として実践されており、学習指導と一体となって実践されている。